

# TFU

## NEWSLETTER

東北福祉大学通信  
Jan 2021 No.95

### Campus Topix

白石市と「地域共生社会の実現に向けた包括連携協定」締結

Team Bousaisi 角田さんが  
国土強靱化担当相らと座談会

### Sports News

元山、山野選手がヤクルト入り

### Event News

鉄道交流ステーションブックレット  
「島秀雄記念優秀著作賞」受賞

### 特集

# ウィズコロナ・ アフターコロナの 大学教育を考える



「中国湖北省武漢市で原因不明の肺炎発生」と第1報が流れたのが、2019年12月。当初はヒトからヒトへの感染の明らかな証拠がなく、メディアの扱いもわずかだったことが記憶されます。ところが翌2020年の年明けから、世界規模で爆発的な感染拡大の一端をたどりました。「新型コロナウイルス」。人類の行動を一変させた、この感染症に関わるニュースを聞かない日は今やありません。本学も入学式を中止、前期からオンライン授業をスタートさせるなど1年間、学生の不安や健康に配慮しながらも、教育の質を落とさぬよう対応してきました。今回の大学通信では「ウィズコロナ・アフターコロナの大学教育を考える」として、千葉公慈学長をはじめ教務部長、学科長、若手教員からの寄稿を中心に特集します。

◆新型コロナウイルス感染症に関する主な出来事と本学の対応◆ ※2021年1月27日現在。太字は政府発令等

月 日	出来事・対応
<b>【2020年】</b>	
2月1日	<b>新型コロナウイルス感染症を指定感染症とする政令が施行</b>
2月27日	3月19日の「令和元年度学位記・卒業証書授与式」全学合同式典の中止を決定。学科ごと、教室での分散開催に。「新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について」第1報発表。海外渡航、部活動の遠征・合宿を自粛・禁止。遠征中の部活・サークルは帰国
2月28日	<b>北海道で新型コロナウイルスに関し国内初の緊急事態宣言を発令</b>
3月2日	<b>2月末の政府要請により小中学校が臨時休校開始</b>
3月5日	「新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について」第2報発表。「放課後進学相談会 in 仙台駅東口キャンパス」を中止
3月9日	令和2年度入学式の式典中止を決定
3月12日	「新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について」第3報発表。部活動・サークルの学内での活動を禁止。新入生の歓迎会や花見の禁止、学外での活動を原則禁止に
3月13日	<b>新型コロナウイルス特措法が成立</b>
3月19日	学科別の卒業式を挙行。卒業生のみ参加、マスク着用を奨励
3月24日	<b>東京五輪の1年延期決定</b> 。新年度の授業開始日を4月8日から13日に延期
3月31日	「新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について」第4報発表。学内施設の閉鎖、感染した場合の学内窓口を保健室に一本化。感染した学生・教職員は欠席・欠勤扱いしない。留学派遣・受入を当面中止、学生の健康診断期間を7月末までの1か月延長等
4月3日	貸与パソコン配付を主目的に入学オリエンテーションを学科ごと実施。新入生のみ入場可とし、約1時間程度で終了。今年度新入生は計1,439人（大学院通学・通信、学部通学生合計）。夕刻、宮城県知事と仙台市長から外出自粛要請の「緊急メッセージ」が送られ、翌日以降の新入生ガイダンス中止を決定。4日、5日を入場禁止に。4月13日からの前期授業開始を5月18日に延期
4月4日	学生の土・祝日の入場を禁止。仙台駅東口キャンパスを臨時閉鎖
4月7日	政府より7都府県に緊急事態宣言が発令、対象地域の知事による外出自粛要請や休業要請が可能に。展示開始日だった鉄道交流ステーション「大回りで行くやさしい鉄道探検隊」が延期
4月10日	「新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について」第5報発表。前期授業を5月18日～8月28日に、Web履修登録期間を5月18日～28日に変更。当面の間の授業をオンラインで実施することを決定。各種ガイダンスは「ランニングマネジメントシステム」「TFU EduTrack」配信に。学生の4月中の大学構内への立ち入りを控えるよう通達。主催講演会等を延期・中止に。学生の健康診断を「秋頃実施」と変更。5月、7月の定例教授会中止を決定
4月15日	新型コロナウイルス感染症防止対策室を設置
4月16日	政府緊急事態宣言が全都道府県に拡大。オンライン授業担当教職員合同チームが決定。学科ごとに教員と職員が担当割される。基本は技術的サポート等
4月17日	カテゴリーにより警戒内容と状態を示す「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）における東北福祉大学の行動指針」を公表
4月20日	職員の勤務を通常より2時間短縮し、9時30分から16時30分に（5月15日まで）
4月22日	協定校の東北師範大学人文学院からマスク3,000枚が届く
4月23日	「新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について」第6報発表。学生・教職員専用コールセンターを開設、新型コロナウイルス感染症防止対策室で対応
4月24日	学納金延納受付を開始。5月11日締め切りとするも、その後8月11日まで延長。社福2年生母娘から、教員向けに手作りマスクが届く
5月2日	学生の全キャンパス入場禁止期間を5月31日まで延長
5月7日	オンライン授業担当教職員合同チームが解散、教員中心の「オンライン授業担当チーム」として継続。国見キャンパスに7箇所、ステーションキャンパス、ウェルコム21に各1箇所、臨時屋外手洗所設置を開始
5月11日	キャリアセンターがGoogle Meetを活用した「履歴書・ES添削」や「模擬面接」を開始
5月13日	「新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について」第7報発表。相談・受診の日安について「37度5分以上の発熱が4日以上」としていた、厚生労働省の5月8日の指針変更に伴い一部変更
5月14日	<b>39県で緊急事態宣言解除</b> 。今年度からの宮城学院との高大連携事業をオンライン講義で開始
5月15日	「新型コロナウイルス感染症拡大によるオンライン授業開始等に伴う東北福祉大学緊急給付金」を決定。通信制を除く全学生に3万円給付へ。匿名の卒業生からマスク1万枚、消毒液80リットルが届く
5月18日	前期授業をオンラインで開始。午前、EduTrackにアクセスしにくい状況に。「オンライン授業担当チーム」の学科担当教員が解散、事務局のみの体制へ変更。技術サポートは情報センターが対応へ
5月19日	引き続きEduTrackにアクセス集中による遅延発生
5月20日	サーバー状況改善。国による「『学びの継続』のための「学生支援緊急給付金」」申請が開始
5月21日	<b>緊急事態宣言3府県（京都・大阪・兵庫）解除</b> 。北海道・神奈川・東京・埼玉・千葉は継続
5月23日	展示開始予定だった芹沢銈介美術館「朱いろ 藍いろ 一芹沢銈介の澄明な色彩」が延期
5月25日	<b>緊急事態宣言が全面解除</b> 。北海道、神奈川、東京、埼玉、千葉を対象外に
5月28日	入構制限（入構禁止）を6月14日まで延長
6月1日	仙台市内の小中学校が再開、夏休みは8月8日～18日の11日間に短縮
6月2日	「東北福祉大学緊急給付金」給付方法を発表。保護者、保証人へ為替郵送
6月8日	入学センターがオープンキャンパスの年内Web開催を発表。実施日は6月21日、7月18・19日、8月23日、9月27日、10月25日、当日午前10時から翌日午前10時まで公開
6月10日	入構制限を6月21日まで延長
6月16日	「新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について」第8報発表。19日に全国を対象に県境をまたぐ移動の自粛解除される方針に伴い、大学の対応を周知。入構禁止を6月30日まで延長。前期授業を原則オンライン、対面授業実施の際は実施日の2週間前を目処に通知を行うとする。課外活動は学生生活支援センター長の許可次第で19日から可能に。

月 日	出来事・対応
6月17日	書洞宗務所から、学生の経済的支援を主旨とした見舞金1,000万円を拝受
6月18日	東北福祉大学教職員有志、東北福祉大学同窓会が「コロナ関連学生支援寄付金」の1口3,000円からの募金受付を開始。受付期間は2021年3月末まで
6月21日	Webオープンキャンパスを再開。第1回は6月23日まで公開
6月30日	入構制限を7月31日まで延長。「新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について」第9報発表
7月6日	学生の課外活動の行動指針レベルが3から2に引き下げられ、一部で活動再開。活動に際し、事前に部長が学生生活支援センターへ「活動指導要領」と「チェックシート」を提出し、感染予防対策の徹底を図る。大学院が対面授業を国見キャンパスで再開、13日からウェルコム21で実施
7月8日	学園祭「国見祭」の中止を発表
7月10日	<b>プロ野球などスポーツ、各種イベントの観客入場が人数制限付きで可能に</b>
7月20日	仙台市内の大学で罹患患者多数となった状況から、学部学科で予定していた一部科目の対面授業開始を延期。本学で学生1名の罹患、1名の濃厚接触者が判明（のちに陰性と診断）。部活動・サークル活動が当面の間、活動禁止に
7月29日	オンラインサークル紹介を大学ホームページ上で開始。一部科目の対面授業の開始を8月3日からとする
8月3日	「新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について」第10報発表。一部科目の対面授業を解禁、キャンパス移動時、入退室時の経路等が示される。申請許可制による課外活動を再開。また、就職に係る課外活動（合同練習会、トライアウト等）についても、特例活動として申請許可制を開始
8月4日	毎年秋開催の「TFU教育フォーラム」中止を発表
8月6日	17時45分から18時4分にかけて、EduTrackにアクセスできない事象が発生
8月8日	対外試合を認めるなど、課外活動やボランティア活動の制限を緩和
8月11日	生涯学習支援室が今年度の主催講座すべての中止を発表
8月12日	ファイアウォール障害により、大学HP、UNIVERSAL PASSPORT、EduTrack、メール等のシステムへアクセスできない事象が発生
8月19日	EduTrackで講義動画が再生できない障害が発生。動画を保存しているGoogleドライブに障害が発生していたため
8月20日	後期授業を9月17日開始、授業方法をオンライン授業と一部対面授業で検討することをUNIVERSAL PASSPORTで発表。13時半過ぎから、Google社提供サービスで障害が発生、大学メール及びEduTrackへの動画アップロード等に影響が出る
8月24日	後期対面授業の教員への意向調査を開始
9月4日	「新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について」第11報発表。9月17日からの後期授業をオンラインと一部対面授業（40名以下、原則2～5時限）とする
9月5日	学生1名の罹患が判明（2人目）
9月7日	学生の罹患を受け、国見キャンパス福聚殿、正門守衛室を消毒。9月9日まで入構禁止に。教務部、キャリアセンターによる「教育懇談会」をオンラインとしホームページに動画公開
9月9日	宮城県同窓会から「コロナ関連学生支援寄付金」として10万円の寄贈を受ける
9月17日	後期授業開始。行動指針レベル全7項目を「レベル1」に引き下げ。40人以下の実習、ゼミ等一部対面授業を開始。1時間目の授業を70分間とする特別措置。対面授業受講前後に同時双方向型授業がある学生に関して、3号館2教室を専用に開放。待機教室は3号館3室を準備。国見キャンパス正門、西門に各部署から検温担当者を配置
10月7日	仙台市への10月5日の庁舎、教育機関同時攻撃予告メールを受け、全学休講、全キャンパス入構禁止措置
11月12日	令和2年度学位記・卒業証書授与式を2021年3月18日、19日の2日間、午前・午後の部の2部制とし、学部別開催することを発表
11月28日	キャリアセンターがオンラインでOBOGセミナー。2回目は12月5日開催
11月30日	キャリアセンターで1～3年生の公務員受験希望者を対象とした公務員業務セミナーをオンライン開催。12月4日まで5日間実施
12月4日	対面授業開始から5カ月となった国見キャンパスの消毒のため、12月5日～9日の5日間を入構禁止に。他キャンパスは対面授業を実施
12月14日	学生の入構が検温と学生証提示のみに。授業の出席票と部署訪問の入構確認票廃止
12月15日	学生1名の罹患判明（3人目）
12月21日	「令和3年度（2021年度）授業の方針について」発表。教室の収容人数を定員の2分の1を基本とする。週3日は学生が対面授業を受講できるようにする、などの方針が出される。学生1名の罹患判明（4人目）
12月24日	学生1名の罹患判明（5人目）。令和3年度入学式を4月5、6日、新入生以外の入構を控える形で学部別に行うことを発表
12月25日	学生1名の罹患判明（6人目）
<b>【2021年】</b>	
1月2日	学生1名の罹患判明（7人目）
1月4日	感染者数を累計でホームページ上に公表
1月7日	政府が東京、埼玉、千葉、神奈川の1都3県に対し緊急事態宣言発令。1月8日～2月7日を期間とする。学生1人の罹患判明（8人目）
1月8日	「緊急事態宣言」発出に伴う本学の対応」をホームページ等に掲示。学生、教職員に対し対象区域となった1都3県への移動自粛を促す
1月9日	学生2名の罹患判明（9、10人目）
1月13日	<b>緊急事態宣言が11都府県に拡大</b> 。大阪、京都、兵庫、愛知、岐阜、福岡、栃木も対象に
1月14日	学生1名の罹患判明（11人目）
1月16日	学生2名の罹患判明（12、13人目）
1月19日	大学関係者1名の罹患判明（14人目）
1月21日	学生1名の罹患判明（15人目）
1月27日	春季休業中の学習教室開放継続を発表

# 一茎草を拈じて 宝王刹を建て 一微塵に入りて 大法輪を転ぜよ

道元禪師『典座教訓』より

手にとった一本の草  
であっても、それで大  
伽藍の仏塔を建てよ  
一粒の砂ほどの場所  
からでも、真実の仏法  
を大いに説法する志を  
抱けよ

東北福祉大学 学長

千葉 公慈

令和の新時代もすでに3年。とりわけこの1年間で世界の様相は一変しました。対面授業も思うように実施がかなわず、学生諸君はもちろんのこと、教職員にとっても試行錯誤を余儀なくされた日々でもありました。しかし斯様な状況下にあっても、常に前向きに取り組まれた皆様には、心から敬意と感謝を申し上げる次第です。

仏教では現世を忍土と表現する通り、この世界はいつも何らかの不確定要素によって苛まれる場所でもあります。サンスクリット語で耐え忍ぶ（サハ）という意味の「娑婆」が当てられるのもそのためですが、私たち現代人は近代科学という一見万能と思える能力を手中にした結果、現世の本質を見失ったのではないのでしょうか。現在のコロナ禍は、そんな私たちに「冷や水を浴びせかけたようにも思われます。

こうした時代だからこそ、大学教育は社会をリードする原動力として、前向きな姿勢とそのメッセージを発信する使命を負っているといえます。少なくとも鎌倉時代の道元禪師は、末法の世と恐れ、人心ともに乱れた当時にあつて、冒頭のような勇氣あふれる金言を世に発信されたのでした。

何という気概に満ちた言葉でしょう。人は往々にして得難きこと、いまだ欠如したものを嘆き、かえって満たされたこと、与えられたものごとは看過してしまうものです。しかし、嘆きからは可能性は生まれず、感謝の失念に未来の創造はありません。たった一本の道端の草でもいい。そ



## 大学は、智慧を覚醒させ育む深源 その社会的責任は一層大になった

今、コロナ禍に左右される世情だからこそ、かえってSDGsをはじめとする人間社会の理想像が見えてくるものがあります。現世に生きる人間性の姿も同様です。大学とは、まさにそうした眠れる本来の智慧を覚醒させて育む深源でもあります。その社会的責任は一層大になったと受け止めています。ゆえに東北福祉大学は、学びを求める学生たちのために、あらゆる努力を惜しまない覚悟です。

いついかなる困難に出会っても、ひるむことなく前進する気概を持った学生たちが、今年もこのキャンパスを闊歩し、ポストコロナ時代を縦横無尽に活躍する姿を見せてくれることを信じてやみません。



## 「オンライン授業の中間総括と次年度の展望」

### 一定の教育効果維持も、質の向上と改善を



教務部長

阿部 裕二

#### ○教職協働チームの立ち上げ 【オンライン授業開始まで】

本学は、令和2年度はじめに前期授業期間を5月18日から8月28日までと変更決定し、新型コロナウイルス集団感染防止を目的として、当面の間、オンライン授業を導入することが決定された。その後、オンライン授業の枠組み等を検討する「遠隔授業検討委員会」を設置し、同委員会の下、教職協働組織である「オンライン授業担当教職員合同チーム」を立ち上げて、実施に向

けた支援を展開した。

#### ○オンライン授業ガイドを公開

#### 【学生等への情報提供と支援】

新入生を含めた学生等への支援としては、各種オンライン授業に関するガイドをホームページ上に公開するとともに専用窓口を設置した。特に新入生に対しては、「オンライン授業で大学生活を始めるみなさんへ」と題する手紙を送付するなど、丁寧な情報提供を心がけた。また、通学課程の全学生に対してネット環境に関するアンケートを実施し、ネット環境整備のための「東北福祉大学緊急給付金」が通学課程の全学部・大学院生に給付された。さらに、より良い学びのための留意点を示した「オンライン授業の受け方」も授業開始直前に公開した。

#### ○スタートと対面授業の再開へ

#### 【授業開始】

前期講義はオンライン授業（資料提示型／動画オンデマンド配信型／同時双方向型（それぞれの組み合わせ））によってスタートしたが、聴覚に障がいのある学生が受講する科目へ字幕を付けるなどの配慮もした。

開始当初はアクセスの集中など接続のトラブルもあったが、その都度、関係者がミーティングを重ね、改善策を検討し、必要な情報は学生や教員に対して発出するなどして対処してきた。

#### 【二部対面授業の実施】

前期授業の開始当初は、講義科目（一般演習を含む）については、対面形式の授業は原則行わず、オンライン形式で実施した。7月からは、少人数の実技・実習・実習事前事後指導、資格に関する演習の一部及び大学院は感染状況をみながら対面授業を導入し、後期は上述した少人数の授業に加え演習も対面授業へ戻したり、オンライン授業を併用したりして実施してきた。

#### ○自由記述による授業評価は

#### 【中間総括】

全面的なオンライン授業の展開は、



一部科目の対面授業が解禁となり、8月5日に行われた介護実習の様子

学生はもとより教職員すべてにおいて経験したことの無いことであり、当初は戸惑いも多

かった。

オンライン授業の個別評価としては、例年は点数化された「授業評価」を実施していたが、今年度は、自由記述を中心とした「授業評価」に変更した。そこでは、教育効果が一定程度維持されていたという評価がある一方で、授業に関する質疑応答の仕方や授業教材の質の向上などを求める意見もみられた。これらの意見を真摯に受け止め、各教員の授業内容や学生対応の改善が求められている。

#### ○対面授業の拡大とオンライン併用

#### 【次年度の展望】

通信教育部を除き、本学は対面授業を基本としており、その意味において、次年度は対面授業の拡大をめざしている。ソーシャルディスタンスを前提とした教室収容人数の限界により、オンライン授業を継続する科目もあるが、最大限感染防止対策を実施し、時間割などを調整したうえで、週3日は学生が通学し、対面授業が受講できるように工夫する。同時に、対面授業が困難な学生への配慮として、オンライン授業等を併用する。

ウィズコロナの中で、全面的な対面授業の実施が困難であるが、より良いオンライン授業の提供を心がけていきたい。

## 「コロナ禍における学科・研究科の取り組みと今後」

カリキュラム改定後も  
オンラインの手法生かす

社会福祉学科長

阿部 一彦



リエゾンゼミ  
Iでは、後期に  
対面授業が可能  
になったが、ク

数が19と多いため、密にならない講義室を十分な数だけ確保することはできなかった。そこで、3グループに分かれ、異なる週ごとに対面授業に取り組みざるを得なかった。その結果、他学科のように対面授業の回数を確保することができなかった。学科の特徴として、施設での1泊2日の体験実習をふまえた総合型選抜入試を予定していたが、体験実習は断念せざるを得なかった。そこで動画での視聴をもとに現場体験を代替する方法で試験を実施した。

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士等の福祉分野実習では、例年施設現場での実習を行っていたが、実習先に問い合わせたところ、実習中止、無期限延期という回答を得た。そこで、(二社)日本ソーシャルワーク教育学校連盟の方針に従い、実習施設とのオンライン接続による学習、関係機関や団

体へのインタビュー、ソーシャルワ

クの実践現場を扱った映像教材の活用などをもとに学内実習に取り組んだ。

各教員グループが各施設実習内容の検討を重ね、各実習先指導者に講話、実習資料作成、映像作成等を依頼するとともに、付きっきりで実習実施に当たった。

本年度はコロナ禍の中で、学科カリキュラムの全面的な改定作業を行った。来年度は大学の授業指針に沿って取り組む一方、本年獲得したオンラインの手法の良い点も生かしていきたい。例えば、固定した現場で、限られた学生数で取り組んできた実学臨床教育Iは、関連法人施設との連携のもとにオンラインの手法を活用し、多くの1年次学生を受け入れて幅広い各種社会福祉事業の役割、現状そして課題などについての学びと考察を深めるためのプログラムに改善されている。

いつでも受講が可能が  
双方のストレス増加に

福祉心理学科長

渡部 純夫

コロナ禍での大学教育は、もちろん初めての経験であり、教職員・学生双方にとって、日々戸惑いの連続で、予



想以上に困難を強いられるものであった。そんな中、福祉心理学科とし

ては、学生のニーズに丁寧に対応しようとして、学科の全教員が全力を挙げて取り組みだったのであるが、オンライン授業における課題がいくつか見えてきたので、それをまとめ今後の対応に生かしていきたいと考えている。

課題は3点あり、1つ目は、授業を通して学生に教員の思いや意図が伝わっているか否か、オンライン授業ではわかりづらいことが挙げられる。具体的には、顔を見せたくない学生が何人かおり、反応をうかがい知ることができないことがあるため、個々の学生の学習の到達度に合わせた個別指導が十分に提供できなかったのではないかと反省が残る。教員側としては、何とかしたいという思いがあるだけにやきもきさせられた。

2つ目は、オンライン形式ではグループとしての活動を行うことに困難が付きまとうことがあげられる。Google MeetやZoomなどのWebツールを用いて対応するなどの方法を試みたが、グループ内での検討が不十分だった感はない。

3つ目は、いつでも授業を受講できる

という甘えから、学生が生活のリズムを乱したり、課題提出の期限を守れず、教員に問い合わせを行うことが増え、双方のストレス増加につながっていった。これらの点からも、今後さらに手厚い対応が求められると考えている。

1年生が教員を身近に  
学生時代紹介動画公開

福祉行政学科長

阿部 裕二

本学科では、オンライン授業に向けて学科会議等で情報を共有しながら、学科担当教職員の協力を得つつ準備を進めてきた。

学科の方針としては、丁寧な授業教材の作成や2年生以上の在学生はもちろんのこと、新入生に対するきめ細かな対応に注力した。1年生必修科目である「リエゾンゼミI」では1時限目に設定されていることから、同時双方向型の授業によって生活のリズムを維持することに努めた。また、オンライン上でグループワークや発表会の方法を取り入れ、画面上ではあるがゼミ生間の交流の場づくりにも配慮した。

また、1年生から3年生の学科必修科目である「福祉行政入門」「福祉行政総論I・II」「福祉行政各論」では、キャリア教育も兼ねて公務員試験合格者の体験談や各種現場で活躍する方々



にも参加していただき、同時双方向方式やオンデマンド方式によって授業を展開した。その際、チャットや書面により質問を受け付け、その後に担当者からフィードバックするなど、できるだけ対面授業と同等の教育の提供を心がけた。

さらに、特に1年生は「リエゾンゼミ」以外の学科教員と直接接する機会が乏しいことから、教員紹介とともに身近な存在であることを実感してもらうために、各教員が自らの学生時代について動画を作成し公開した。

本格的なオンライン授業の実施は、多くの教員にとつて初めての経験であったが、今後も、学科においてオンライン授業の効果的な実施方法や対面授業との組み合わせ（ハイブリッド）の在り方を検討、共有していく。さらに、学生からの授業評価を踏まえつつ、より良い授業の提供に努めていく。

### 通信の本領発揮で見えた 学習システムの将来像

通信教育部長

三浦 剛

コロナ禍の状況により、実習を始め、演習科目もオンライン化することになった。しかし、ここで、これまで通信教育部で培ってきたオンデマンドなどの通信教育技術が十二分に発揮されることに



三浦教授（左）と竹之内准教授による通信教育部でのリモート指導

なった。

社会福祉

実習を例にとれば、映像やオンデマンド教材の作成、配信とリアルタイムでの課題の達成

状況の確認、実習記録などの時間内での指導などが、高度なオンライン技術によって可能になった。実習生は配属実習と同様に、実習中は常に指導者のスーパービジョンを受けることができた。実習生は連日8時間以上もパソコンと向かい合うことになったが、授業評価からは彼らの得られたものは大きかったことがわかる。この状況は、まさに通信教育がその本領を発揮する機会であったといえる。実習や演習にもオンライン技術が有効であることも確認でき、現場やスクリーニングでの学びと、オンラインでの学びを融合した学習システムの将来像が見えてきた。

### 感染対策と学修効果向上 両面でその有効性を追究

産業福祉マネジメント学科長

岡 正彦

2020年4月の大学構内は、新緑



と青空の心地よい季節感とは相反し、主役を失った空間と時間だけが漂う様相を呈していました。手探り状態でスタートしたオンライン授業は、数多くの功罪を生み出しました。例えば、オンライン授業のメリットは、「時間と空間の制約」がなくなること、学生が自分のペースで学習できること、事前配布された資料で学習ができることなどが挙げられます。科目によつては、対面授業と同等以上の学修効果が認められています。一方、学生からは、課題の量が多すぎる、質問の機会が少ないなどの声も届いています。

本学科では、このような学生の声を反映し、学科の特性を活かしたハイブリット型授業の展開を進めていきたいと考えています。特にフィールドワークを中心とした科目は、オンラインで事前配布した資料等を使った予習を経て、対面授業で、少人数によるアクティブラーニングを取り入れ、コミュニケーション力を高めるグループワーク中心の授業を行います。このような形態の授業を実施して、感染対策と学修効果の向上の両面でその有効性を追究していきます。

### 不安解消に全1年生と オンライン面談実施

情報福祉マネジメント学科長

大内 誠



情報福祉マネジメント学科は、人

類の福祉の向上のためにICTを

どのように活用するかを研究・実践する学科です。そのため、コロナ蔓延下におけるオンライン授業のあり方についても以下のような様々な工夫と実践を行いました。

① Google Meetを活用したロールプレイ実習やゼミのグループ研究の実施 Google Meetのブレイクアウトルームを活用して、ロールプレイによるグループワークを行ったり、ゼミ内のグループ研究を実施したりしました。話すならば対面が良いという声もありましたが、複数の人と話し合いができてよかったとか、対面よりも話がしやすいといった感想も見られました。

② オンラインツールを活用した参加型授業や反転授業の実施 ビデオオンデマンド型の授業だと学生はどうしても受け身になりがちです。そこで、メッセージ機能、チャット機能、LINE、Google Formsなどを活用して参加型授業や反転授業を実施しました。こ

れによって学生たちは対面型に近い形で授業に参加することができました。一方、教員の負担はかなり増加しました。

③ハイフレックス型のプログラミング教育の実施 後期に入ってから対面とオンライン型を同時に行うハイフレックス方式に切り替えた授業がいくつかありました。中でもプログラミング基礎Ⅱにおいては、教員とアシスタント学生のチームティーチングによって、オンライン型の欠点である質問のしにくさを克服し、きめ細やかな技術教育を実施しました。

④Google Meetによる個人面談の実施 毎年リエゾンゼミの担任と学生が個人面談を行ってきましたが、今年度はGoogle Meetによるオンライン面談を全ての1年生に対して実施しました。これによって1年生が抱えていたさまざまな不安を解消することができました。

#### 受入先の条件をクリア 対応策工夫し教育実習

教育学科長

石原 直



教育学科においては、教員などの教育関係の職をめざす学生が多いこ

とから、「人や物との関わりを通して学ぶ」ことを大切に考えています。

コロナ禍においては、学校現場へ入ることや子どもたちと関わるものが強く制限されましたが、教育現場で学ぶ貴重な機会である教育実習を何としても実施したいと考え、1つ1つの実習先に受け入れが可能かどうか直接問い合わせをし、また、2週間前に現地に入って体調管理をするなど、受け入れ先のような条件をクリアできるように、対応策を工夫してきました。

幸いなことに期間の短縮はありましたが、仙台市をはじめとして、多くの学校で実施することができました。また、仙台市教育センターでは、現職教員向けの研修会への学生の参加を認めてくれ、多くの学生が参加しています。授業においても、音楽科の授業やゼミなどでの対面授業の工夫や、オンラインにGoogle MeetやZoomを積極的に活用するなどしてきました。今後も体験的な学びをサポートすべく、様々な場面で工夫しながら取り組んでいきたいと考えています。

#### 調整と厳格な体調管理 臨地実習で感染者出さず

保健看護学科長

杉山 敏子

2020年、コロナ禍の中、何といっ



ても臨地実習の実施について苦心しました。特に前期は、感染の状況が

わからないため、実習をほとんど学内実習に切り替えざるを得ませんでした。後期においては、何とか様子もわかり実習を再開することを決定しましたが、冬場に感染症が爆発的に増加するのを恐れ、年内中に基礎看護学実習Ⅰ、3年次の大型臨地実習を終えるように、臨地実習を調整しなおしました。実際に臨地実習を行うことができたのは、例年の半分ほどとなりましたが、全員何とか感染者を発生させず臨地実習を行うことができました。

臨地実習を実施するために、学生は実習開始の2週間前からアルバイトは禁止、朝、昼、晩の体温測定と体調管理を行い、会食は禁止、若い学生にとつてつらいこともたくさんあったと思います。さらに、臨地実習を受け入れてくださった病院の皆様にも大変お世話になりました。心より感謝いたします。

卒業生は医療の第一線で働くことになりました。東日本大震災時の卒業生は卒業してから大きく成長し、今まさにベテラン看護師・保健師として活躍中です。今年の卒業生もきつとこの災害を乗り越えて大きく成長してくれることと期待し

ています。がんばれ東北福祉大生！

#### 触診の感触、周囲の距離 実習系授業方法に難しさ

リハビリテーション学科長

齋木しゅう子



リハビリテーション学科の取り組みとして、学生たちの顔、声を聞き授業理解、学生たちの気持ちを支援するよう心がけ、多くの教員が早くからGoogle Meetを用い双方向での授業に取り組みました。生活リズムを崩さないようリアルタイムでの授業実施を心がけ、遅れがちな学生には即連絡、面談を行い学年担当やゼミ担当教員と科目担当者で情報共有し、学生フォローを行っています。学生との個別面談や主要科目の学習会の企画等、特に1年担当教員は、Meetやメール等できめ細やかな対応をされています。

後期には、Google Jamboardを用いた、対面と遠隔の併用も始まりました。演習、実習授業を対面で行うため、飛沫対策としてのパーティションを作成、設置。実習系授業実施の際は、フェースシールド、グローブ、マスクにて実施していますが、触診時の感じやフェースシールドが相手に当たり必要な距離が取れないなど、実習系授業



の方法の難しさを感じています。

臨床実習は中止、途中で終了もあり臨床に出られなかった補完として、実習施設の協力のもと評価・治療場面の実際を動画教材とし撮影、学内での学修に活用するよう進めています。

このような状況であっても、質の高い学修経験が積める工夫が重要だと思います。

### 大学生活の日常が喪失 学ぶ意欲を失わせない

#### 医療経営管理学科長

船渡 忠男



本学科は、医療事務職、救急救命士をめざす学生が多い。医療系は3

年次医療機関における実習があるが、本年度は実習先から延期を余儀なくされ、一部の学生は越年することになった。救急救命士課程もしかりである。そのため、学内で3密を避けた実習を工夫して取り組んだ。少人数のゼミや実技演習をできるだけ増やした。とくに新1年生には学生同士、教員とのコミュニケーションを積極的に交流していく必要がある、お互いの顔を確認できる双方向のWeb会議システムGoogle Meetを積極的に利用した。また、理解度を確認するメールのやり取りは有効であった。

コロナ禍では、直接の指導がない、

大学生生活の日常が喪失したと感じる学生もいるなど、多くの課題を残している。今後は、講義・実習のあり方、教育のICT化をどう具現化していくのか、今回のコロナ禍における経験を基に、学びのあり方を模索していくべきと考える。大切なのは学生の学ぶ意欲を失わせないことである。これからも長期化すれば、社会で求められる能力を引き出していくことをオンライン授業の中から答えを導き出していきたい。大学の教育を見直す良い機会と、前向きに捉えている。

### 対面減で調査研究に影響 授業は方法により効率的

#### 大学院総合福祉学研究科長

三浦 剛



大学院教育においてのもっとも影響を受けたのは、院生の調査研究だった。昨今、質的データの分析による研究が多く行われるようになり、院生の研究でもインタビュ・データをとることを計画したものが多かった。コロナ禍により、対面による聞き取りができなくなり、アンケートに切り替えざるを得なかったものも多かった。いくつかのデータマイニング・ソフトウェア

アが開発されているが、まだ十分実用的とはいえず、アンケートによって得られたテキスト・データの分析は、KJ法などで概念形成を行うことが中心となった。しかしこれはまた、研究の目的と方法の整合性をじっくり検討する機会にもなった。

また、対面授業を減らすことは、いわゆる「講義」で伝えなくてはならない内容はオンデマンド教材化し、対面、オンラインによる同時双方向授業の機会は討議や研究指導に活かすことができ、結果効率的であった。特に通信制大学院ではこのような方法で、貴重なスクーリングの時間を充実させることができ、今後の授業編成に取り入れることにした。

### コロナで加速ICT教育 対応可能な教員養成急務

#### 大学院教育学研究科長

岡田 清一



コロナ禍のなかで、令和2年度が終わろうとしている今、今後、同様の

のまさに災害が起こる可能性を否定しない現状のなかで、大学院の教育支援をどのように展開すべきか、早急に制度設計する必要がある。

もっとも、本研究科は学生数も少なく、数字的には対面授業が可能な状況

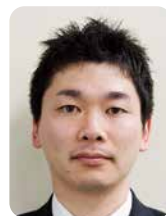
にある。しかし、授業の内容によっては、オンライン授業やその他の方法を設定せざるを得ないものもある。例えば、地域を対象とした調査活動など、対象地域を東北6県に限ったとしても、対象者との対面は不可避であり、十分な時間をかけることは難しくなっている。代替的にアンケート調査なども考えられるが、事前指導の設定など、院生の時間的負担をいかに緩和するか、早急な検討が求められる。さらに、特別支援教育を専攻する場合、特別支援研究室が主催する学習支援機関「ひかり野塾」に通う児童・生徒を対象にする場合が多く、保護者との合意形成を初年度から、しかも早急に進めなければならぬ。これまでは、時間をかけて保護者との信頼関係を構築できたが、コロナ禍のもとではそれが難しく、代替方法を検討する必要がある。

教育分野は、その教育内容も方法も確実に変化しており、とくにICT教育はコロナ禍によってさらに早く推進せざるを得なくなった。学習者用デジタル教科書が法的にも制度化され、紙の教科書との併用以上に活用する機会が増えてくることはいうまでもない。そうした状況に対応できる教員養成が急務であり、カリキュラムの改編を検討する1年になると思われる。



## 学科教員によるオンライン授業の工夫点、課題と改善策

社会福祉学科講師 千葉 伸彦



私が担当する講義科目は前・後期すべてがオンラインでの実施となつた。学部学科を超え、1年次に履修する学生が多い。前期の講義開始直後は、講義受講等に関する不安が感想として記述されることが多かったため、オンデマンド型映像として「受講の方」や「ノートの取り方」についてミニレクチャーとして配信、学生から「大学でどのように学んだらいいのか具体的に分かった」と感想が寄せられた。

### EduTrack で学生の気付きを共有

また、EduTrackにおいて原則、①講義配布資料(PDF)、②講義時パワーポイント資料(PDF)、③講義映像(10分程度×5〜6つ)、④確認テストをオンデマンド型として配信した。講義の一部として、児童養護施設出身者や児童虐待を経験した方の映像、障がいのある子どもを持つ保護者等、当事者が自らYouTubeなどの動画を配信しており、数分〜20分程度の映像を視聴するように提示した。視聴後には、EduTrackのディスカッション機能に

「動画を視聴した気づきや感想」を記入してもらい、学生同士の学びや気づきの共有ができる空間として利用した。

演習系科目では、学生から「現場経験の不安やボランティア未実施の不安」の訴えが多かったため、Google MeetやZoom等を用いて、福祉施設等の職員の方々と学生が交流できる場を設定した。コロナ禍の社会福祉実践の現状や学生に期待することなど、質疑応答のできる機会となり、学生からは「コロナ禍で将来が不安だったが、現場の方々の熱い想いを聞き、あらた

福祉心理学科助教 平泉 拓



授業をオンデマンド収録型で実施する場合、授業の醍醐味である学生

と教員の双方向のコミュニケーションが少なくなる。学生にとっては視聴、感想の提出がエンドレスに続く作業になり、教員にとっては配信、感想の閲覧、フィードバック文章の作成が続く作業になる。

私は、質問や感想に対するコメントを20分程度で説明するフィードバック動画を撮影し、配信している。頻度は、

めて福祉援助職に対する目標が明確になった」との話が大変印象的であった。

今後は、根気強く我慢をしながら学びを続けた学生の努力に報いるためにも、学びに対する欲求を引き出し、コロナ禍、オンライン授業という環境下であつても、学生の学びを止めない取り組みとその質を高める授業を継続する予定である。

福祉行政学科講師 清水 由賀

オンデマンド授業で最も苦労したがおそらく効果があった点は、字幕をつけた点である。聴覚障がいを持たない学生にとっても助かるといった声が多かった。人工知能を使った字幕作成ソ

### 質問へのフィードバック動画を配信

科目によって毎回分または2週間分である。フィードバック動画が良かったという学生の声も多い。特に、オンデマンド開講または教員同士で協力して開講している科目の場合は、複数の教員で和気あいあいと撮影し、教員同士のかけあいも生まれて、撮影している私自身も楽しめている。

なお、フィードバック動画の時間を加味して、通常の授業動画は時間を30〜60分程度の内容に圧縮している。

### PC2台でハイブリッド授業、課題は鳴音



6月3日、パソコンとスマホを駆使しリゼンゼミで1年生を指導する清水由賀講師

フトを使ったが、自動的に作成された字幕がより正確なものになるためには、原稿を読み上げる形で収録する必要がある。原稿なしで話すとAIの聞き間違いが多く、結果的に字幕修正に時間がかかる。7,000〜8,000字程度の原稿で40分程度の動画になった。

同時双方向型授業においては、Google Classroomと併用することが便利であった。課題提出・資料配布・共有ドキュメントの作成・ドラ

イブの共有などをしながら同時双方向で対話を進めることができ、対面のみでは実現できない形態でもあった。Google Jamboardで複数人が同時に書き込みをしたり付箋を貼ったり参考となる記事やリンクを貼り付けたりしてアイデア出しをするのも楽しい。

対面・オンラインのハイブリッド型の授業は、PCが2台あれば意外と通常通りの授業ができることが分かった。むしろ遠隔からでも「対面授業」に参加できる点がかつてよりも便利だ。

PCの1つは教員、1つは教室の様子を映し、教室のスクリーンに映すスライドをオンライン上でも画面同期し教室内の声をマイクで拾えば、対面・オンライン双方の学生がほぼ通常通り授業に参加できる。課題は、ハウリング（鳴音）である。同じ空間で2つ以上のPCが同じビデオ会議システムに入って発話することができない点は、難点だ。

## 産業福祉マネジメント学科准教授

工藤 健一



自分なりに工夫したことは、学生への「語りかけ」です。これは同時に改善を要する課題でもあります。昨年度まで、教室を見渡せばそこには学生たちの微かな頷きや睡魔との闘い、ごく稀に私が面白いことを言った時などの失笑や微笑が当たり前にありました。これらは時間と空間を共有するからこそ感じる（見る）ことのできた学生の反応ですし、それに対する私の反応もあつたはずですが。

## 「語りかけ」で「反応」引き出す

しかしオンラインではこのリアルな反応（に対する反応）がありません。そこで、文章による資料であっても「皆

さん、こんにちは」から始め、口語体でモニタの「向こう側」にいる個々の学生に向けて語りかけるように書いていく。動画でも説明口調は避けて語りかけるつもりで喋る。それを見た（読んだ）学生の「今は夜だよ」とか「これさっきも言っただろ」「今、言い直したね」といった反応というかツツコミというか、引っかけかのようなものが生まれることを期待しました。内容を丁寧に説明することや頭の中で整理されたリアクションを求めること（確認テストやレポート）、質問への丁寧な対応なども心掛けましたが、それとは別に、時間と場所を異にする状況でも学生たちの「授業中の（身体）反応」を引き出せればと思いつきながら授業に取り組みました。

## 情報福祉マネジメント学科講師

岩田 一樹



オンライン授業はほぼ全て、①授業はオンデマンド動画で実施、②毎

回演習問題を課し、その解答をもって出席、③通常の講義時間は双方向通信で講義動画または演習問題の質問のみを受け付け、質問の無い学生は参加不要、の形式で行いました。解答ができることも重要ですが、問題について適

## 双方向型で学生の質問内容を重視

切な質問ができることを重視し、③を設けたのが工夫点です。また、プログラミングを伴う講義では、講義内容全てについてサンプルコードを提供し、最低限、講義内容は再現できるようにし、学生が諦めないようにしました。学生からは、見直しが容易である点と、やった気になった点では評判が良かったです。

一方、問題が解けない学生の中には単位自体を速攻で諦めてしまう者もいるので、演習問題の難易度設定、また、いつ視聴してもOKにしてしまうと講義をためてしまう学生も散見されたのが課題です。課題の難易度設定は、オンライン授業だけでなく、対面授業でも課題です。ただ、上記の授業形式だと、オンライン授業の方が質問をしやすいようなので、高難易度でも大丈夫なようです。後者については、視聴可能期間を短く刻んで、講義を貯めないようにすることで、改善すると考えます。

## 教育学科准教授 和 史朗



本学は5月18日が講義開始となつたので、既に講義が始まっていた他大学の状況や学生の声を収集し、種々

## 「対面授業以上の質」を念頭に

の課題を解決する唯一の方法は、対面授業以上の質でオンライン授業を行うことのみと考えました。また、せっかくの機会なのでオンラインでしかできないメリットを考えるようにしました。朱（2019）の行った調査では、パワーポイント画面だけの講義より、人とパワーポイントの両方が映っていた方が学生はわかりやすく感じるという結果が示され、やはり配信動画に授業者が映っていることは必須と考えました。

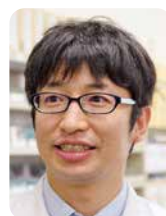
また、ステイホームで運動不足になりがちで学生にとって、肢体不自由者の動作理解のためのエクササイズを取り入れた授業スタイルも好評だったようです。学生による授業評価には「対面授業を受けているようだった」という多くの声があり安心しました。

教育実習事前指導でも今後の社会の変化を見据え、オンラインを活用した特別支援学校の授業の在り方について、模擬授業を通して学生と研究しました。とても難しい課題でしたが、果敢に挑んでくれた28名の学生達の模擬授業はどれも素晴らしく、改めて本学学生の持つ力に感じました。「どうしたらできるのかを考える」



特別支援教育の発想が生き、学びの多い1年となりました。

## 保健看護学科准教授 小野木 弘志



オンライン授業  
として資料提示  
型、動画オンデマ  
ンド配信型、同時

双方向型が提案され、私は主に動画オンデマンド配信型の授業を実施しました。実施に際し①動画の作成、②授業毎の到達度確認、③フィードバック、を意識しました。

### 1 動画 10 分前後で学生の集中力保つ

①動画の作成では「1動画あたり10分前後（学生の集中力を保つ）」「自身の顔を晒す（学生ととりわけ1年生に、誰の授業を受けているか意識させる）」ことを心がけ、パワーポイント、Google MeetやZoomの録画機能、動画編集ソフトを利用しました。

②授業毎の到達度確認では本学学習管理システム（LMS）であるEduTrackの確認テスト、課題提出アンケートの各機能を授業に応じ利用しましたが、「学生の負担が過度にならない」「シンプルな方法」「繰り返し情報提供」を心がけました。

③フィードバックはLMSのディスカッション、アンケート、メッセー

ジの各機能で学生からの質問に応じましたが、LMS自体にアクセス困難な学生にはG-mailやGoogle Meetを利用して質問やオンライン授業そのものの相談を受けました。

①②③いずれも多く時間を要しました。またオンライン授業そのものが困難な学生にも配慮が必要であると感じています。

## リハビリテーション学科講師

黒木 薫



理学療法士は動作・動きを治療する（指導する）専門家である。理学

### 動作を自ら撮影させ「実感」を得る

療法士の養成課程においては人体に関わる知識の修得のみならず、実技を通して関節の動き、筋の働き、動作の理解が必須である。学生にとって実技は、普段、意識せずに動かしている身体を、座学で学んだ知識をもとに意識しながら（実感しながら）動かす貴重な機会である。

しかし、実技の対面授業はごくわずかに限られ、オンライン授業にて「学生の「実感」をいかに得られるようにしていくか」が課題であった。2年生を対象とした授業での試みとして、ストレッチや筋力トレー

ニングなどのテーマを与え、自ら動作しているところを写真に収め、写真とともに関節運動、活動している筋の名称などの説明を加える課題を提示した。提出された内容に対してフィードバックを行い、学生が再検討する過程のなかで新たな発見や気づき、理解を深めることを促した。

高校まで部活動等で身体を動かしている学生が多いこと、普段からスマホを使って写真撮影している年代であり、こういった課題には抵抗なく取り組んでくれたように感じている。この課題は、1年時に人体の基礎知識を学び、動作イメージがまだ乏しい2年生にとっては良かったのかもしれない。治療的関わりを学ぶ3年次以上ではさらなる検討が必要である。

オンライン授業ではできることが限られるが、学生が「実感」の得られる授業となるよう試行錯誤していきたい。

## 医療経営管理学科准教授

河村 孝幸



授業は主にオンデマンド型を、ゼミはZoomを使った同時双方向

型を採用しました。工夫した点と「学生の感想」を紹介します。1点目は、

個人が特定できない形で、毎授業後の確認テスト成績一覧を公開したことです。「次はこの点数を取って順位上げるぞとなったり、グラフでこんなに高得点の人がいるんだから自分も頑張ろうと思った」（1年生）。

2点目は、授業後の感想として自由記載欄に綴られた多様な気づきを、キーワードの出現率から可視化し共有を図りました。「周りの学生の学びの様子が見られて効果的だった」（3年生）。

### 成績公表、気づきの可視化、字幕効果

3点目は、動画に字幕表示を追加したことです。聴覚障害学生の情報保障が目的でしたが、他の学生にとっても理解の助けになり、教員自身の振り返りにもつながりました。オンライン授業の課題としては、体験や実習を交えた講義内容を省かざるを得なかったことでした。

振り返ると、「教育の質」の維持・向上のため、授業評価アンケートや学内外の各教員の取り組みを参考に模索した1年でした。ただ、教員一人の努力で解決できることには限界があります。コロナ禍での学びを経験している学生の声を真摯に受け止め、大学全体で考えるべきだと感じています。

## 学生の声

学生生活を大きく変えた新型コロナウイルスとオンライン授業。その1年もうすぐ終わろうとする中、①オンライン授業で良かった点②オンライン授業で苦労した点③来年度以降の大学の授業で期待したいこと、の3点について一部学生に自由記述でコメントをいただきました。自分のペースで学習できたことをメリットとして挙げる学生が多かった一方、集中力の持続や課題の多さ、教員や友人とのコミュニケーションの取り方に苦心した様子などが垣間見えま

した。(コメントは一部抜粋。構成・広報課)

## 卒論アンケート回答率が減る

①自分の時間が増えた。大学へ行く準備や帰りの交通機関の心配をしなくとも良かったので安心して講義に集中できた。

②4年の講義で、ゼミと卒業論文のみ選択していたが、オンラインだと仲間との情報共有にも限界があったり、図書館での調べものができなかったりして、なかなか思うように進められなかったのが辛かった。卒論論文を作成する際、アンケートの協力をお願いした時も、対面よりも回答率が下がってしまった、データ集めに苦労した。

③先生によって機械の得意不得意が講義の進行に大きく影響していると感じた。上手く活用すれば、対面講義よりも多くの情報を共有することができ、学生のモチベーションも変わってくると思う。

(福祉心理学科4年女子)

①遠方から通学している友人は「交通網の麻痺に関係なく受けることが出来てよい」と言っていたが、正直メリットはそ

れくらいだと思う。

②対面授業に比べて集中しにくく、メリハリがつかない。各自のオンライン環境に左右されやすい。講義によっては資料提示のみで、学習の質が大幅に低下したように感じられた。

③連絡の迅速化。オンライン授業にすると決定した連絡ですら遅かった。学生のためを思っただけで、よりよい学習環境を提供してきたいのなら、より早い対応と連絡をしていただきたい。また、大学の各課ごとで言っていることが異なる等、連携が取れていない場面が見受けられ、そういった点も改善の余地があると思う。

(教育学科中等教育専攻3年女子)

①授業を繰り返して視聴でき、復習しやすい。自分のペースで授業に取り組むことができる。

②学校での演習ができないため技術面の勉強が難しい。コミュニケーションを取りづらい。

③質問などをしやすくなるための時間の確保

(保健看護学科3年女子)

①自由な時間、生活リズムの乱れ

②オンライン授業になったことで、自由に使える時間が増えた。

③大学に行かなくなったことで授業中の集中力と定着率が低くなっていると感じる。また、生活リズムが乱れた。

④授業を大学で受けたい学生とオンライン授業で受けたい学生が出てくることを踏まえ、双方で受けることができることを期待している。

(福祉行政学科2年男子)

①好きなスタイルで受講も…

②オンデマンド授業の場合は好きな時間に受けられるという点、オンタイムの授業ではGoogle Meetを使用しているためチャットで質問しやすい点。また、オ

ンライン授業では座り方や衣服や化粧の気にせず好きなスタイルで受けられるのも魅力を感じた。

②毎週確認テストやレポートの提出を要求される点。多くがこの方式のため、毎週課題提出に迫られるという学生も周りには多い。

③オンライン授業のなかでどのような進め方をしていくのか、試験はどうなるのか、オンラインまたはオンデマンドなのかなどの今年度のオンライン授業のノウハウを生かしたシラバスの作成や説明が欲しいと感じる。

(情報福祉マネジメント学科2年男子)

①学習力向上、集中力持続は苦労

②通学時間の無駄がないので、生活リズムにも余裕ができた。動画配信型の授業では、一度では理解できなかった部分を何度も再生でき、学習力の向上にもつながっていると感じる。同時双方向型の授業は、同じ場所にいなくても対面授業のように指導を受けることができるので、通学できない現状の中でもありがたく思った。

③集中力の持続に苦労した。オンライン上だと誰にも見られていないという意識や緊張感の薄れから、ついとうとうとしてしまうことがある。

④今後は多くの同時双方向型の授業ができることを願う。コロナ禍で人とのコミュニケーションも薄れている今は、オンライン上でも教授や友人の顔を見たり、声を聞くことで臨場感が出て、安心するからだ。

(教育学科中等教育専攻2年女子)

①資料印刷で出費がさむ

②授業動画や資料が繰り返し見られたり、一時停止が出来るので、勉強する際の復習や内容の確認がしやすい。自分の好きなタイミングで勉強ができる。

②課題の提示の説明が口頭ではないので、理解しづらく質問もしにくい。授業動画が止まったり、見られない時がある。先生によっては対面の時よりも課題がとても多い。資料を自分で全て印刷しないといけないので、出費がかさんだ。

③適度な分量の課題提示と課題の詳しい説明。臨機応変で柔軟な対応。

(教育学科中等教育専攻2年女子)

①大学で授業を受けたい！

②動画視聴の授業では、分からないところは何回も見返せるため理解しやすく、自分のペースで授業を受けられる点があった。

③1人でずっと授業を受けているため、集中力がなかなか続かず飽きてしまう点。

④やはり大学で授業を受けたい。実技授業で登校する機会があったが、久しぶりにクラスメイトと会えた時の嬉しさは半端じゃなかった。学校に行くことがこんなにも楽しいのかと、ものすごく痛感した。

(リハビリテーション学科)

①理学療法専攻2年女子

②他人の目がなく手抜きが

③家の中で完結するため、自分で勉強しやすい。

④どうしても、動画を見るだけ、課題を出すだけなど他の人の目が無いため手抜きがち。

⑤動画や課題を出していればいい、みたいな先生がいるので、質問や疑問などにかような状況であったらもっと答えて欲しい。

(医療経営管理学科2年女子)

①システム不具合なくして

②1期間内であればいつでも授業の動画が見られるため、復習がしやすかった。

③授業によって課題の出題方法がバラバラだったため、わかりづらい授業があった。

④EduTrackの不具合などで授業やテス



トに支障が出るがあったため、来年度は不具合がなくなつて欲しい。

(医療経営管理学科2年男子)

### ノートにまとめやすいオンデマンド

①自分のペースで授業を受けることができた点良かった。特にオンデマンド授業では、講義動画を一時停止できるのでノートをまとめやすく、モチベーションが上がった。

②EduTrackのメッセージ機能を通して先生と連絡を取るが、たまに3週間以上返信が来ないことがあったので、次々に疑問が増えていきため込んでしまった。③大学に直接行って勉学に励みたいので来年度以降は大学で、すべての授業とはいかなくても対面式になることを期待したい。

### 自ら考えて実践、を痛感

(社会福祉学科1年女子)

①自分の時間をうまく組み立てながら予定を組んで授業を進められたこと。学校に行かなくて良いため、その分の時間を休憩時間や学習復習時間にあてて有効活用することができた。オンライン授業を受けていく中で、「大学生がいかに自主的に行動し判断した上でやらなければなら

ないことを自ら考えて実践しなければならないのか」を感じ考えることができ、その点において成長できた。

②大学生活のはじめから同級生との交流もほぼなく、誰がどの講義を取っているのかもわからないため常に授業において孤独感があった。時には友人らと話し合いながら行う学修が理解力の向上につながっていたため、少しやりにくさを感じた。

③各科目・先生ごとでオンデマンド配信型もあれば双方向型もあるなどの点において、それぞれの学修における内容把握の度合いに差が起らないのか等の不安があった。シラバスの授業構成や評価方法から大きく変更となった科目もあり、望んだ通りの学びを得られたのか判断しにくいものも多少あったと感じる。

(社会福祉学科1年女子)

### 履修や単位について何度も電話

①移動時間がかからないこと。移動することがないため、コロナウイルスの感染リスクが減ったこと。

②大学のシステムがそもそも分からない状態だったために、履修や単位、先生と

の連絡の取り方について何度も大学に電話した記憶がある。対面で直接伺うことができれば、スムーズに理解できたのではないと思う。

③大学生活の半分がオンライン…という複雑な思い出にはしたくない。とはいえ、私がどうこうできる問題ではないのだが…。

(福祉心理学科1年女子)

### 対面授業、シャトルバス再開に期待

①好きな時に好きなだけ授業を視聴できる点。対面の授業では、分かっているなくても理解したふりをしてしまうが、オンライン授業ではすぐにその場で巻き戻すことができるため、納得のいくまで視聴をすることがあった。

②コミュニケーションが取りづらかったこと。私を含めオンライン上で顔出しをすることに抵抗を感じる人も多かったためか、顔出しせずにグループワークをすることが多々あった。声色だけで相手がどのような表情をしているかを察するのは難しく、かなり気を使っているが話し合いをした。また、ガイダンスがオンラインになったことで履修登録にかなり苦労した。

コロナ禍における大変さのひとつには、「他人と共通理解を持つことの難しさ」があると感じます。実際に自身や身近な方が感染され大変な思いをされた方はもちろん、学業や仕事、経済面的変化、家族や友人と過ごす時間の変化等、それぞれが大なり小なり影響を受けたと言えるでしょう。人は、共通理解を持てると安心します。しかしコロナ禍においては、この状況に何を感じ、どのような影響があったのか千差万別で、「コロナ禍」という同じテーマで話をしながらも、共通理解で語り合うこと、共感し合うこと

### 共通理解の難しさ…違っていていい

が難しいという状況が起っていると云えます。

大学という場で考えると、授業や友人と過ごす時間において、「直接会うこと」の重要性を再認識した方は多いように見

えます。同時に、オンライン化が進んだことにより、学びやすさや過ごしやすさを感じたという方も少なからずいるように見えます。

大切なことは、「一人ひとり状況や感

じ方が違っていること」「違っていて当たり前で、それでよい」ということです。ご自身の感情も大切にしながら、また周囲の人にもそれぞれの感じ方があることも大切にして、尊重し合いながら、過ごしていきたいものです。

(ウエルネス支援室 佐藤 名史)



③対面授業が増えること。先生方も慣れない環境下の中で、私たちのために工夫を凝らしていることは授業を通して感じている。だが、対面授業によって得られるものがあることも事実であるとも思っている。また、大学の寮で一人暮らしをしているが、国見キャンパスまで20分歩かなければならない。本来ならシャトルバスが運行しているはずが、コロナの影響で今も運行していない。特に冬の5、6限の対面授業の帰りは暗く、長く感じる。人数制限や夕方のみでもいいので、シャトルバス運行再開を期待したい。

(福祉行政学科1年女子)

### 考えを的確に伝えることに苦心

①感染のリスクを減らすことができた点。オンライン授業の場合は質問に対する返答に時間がかかる場合があるため、疑問に思ったことやわからないことは、テキストやインターネットなどを用いて調べるようになった点。授業時間をしっかり把握し、課題を期限よりも早めに終わらせることで自分に使える時間が増え、生活習慣を見直すきっかけになった点。

②授業に関する理解度チェックの確認テストや課題の量が多く、大変だった。またオンライン授業では「直接」話を聞くことはできず、文面上でのやりとりが多くなるため、自分の考えや聞きたいことを的確に伝えることは苦労した。

③対面授業を望む学生や保護者の声と、新型コロナウイルス感染に対して危機感を持つ学生と保護者の声で大学は板挟み状態になっていると思うが、「対面授業」と「オンライン授業」のハイブリッド化が求められる中で、いかに感染者を出さずに対面授業とオンライン授業を併用するかを期待したい。

(医療経営管理学科1年男子)

## 新任教員紹介



上 塙 高志教授  
担当科目・リエゾンゼミⅠ（基礎演習）、Ⅱ（専門基礎演習）、Ⅲ（専門演習Ⅰ）、精神医学、精神保健学

宮城県出身、弘前大学医学部医学科卒業、東北大学医学部附属病院神経精神科医員、博士（医学）、東北大学教育学部助教授、東北大学大学院教育研究科教授を経て令和2年4月から本学教授



井 樋 慶一教授  
担当科目・医学一般Ⅰ、産業医学、人体の構造と機能、救急処置法、生化学・代謝学

岩手県出身、東北大学医学部卒業、医学博士、東北大学医学部附属病院助手、同講師、東北大学大学院医学系研究科助教授、大学院情報科学研究科教授、大学院医学系研究科教授（兼務）、東北大学工学部教授（兼務）等を経て令和2年4月から本学教授



市 江 雅芳教授  
担当科目・リハビリテーションの理念と概要、骨・関節障害とリハビリテーション、老年期障害とリハビリテーション、リハビリテーション実践など

長野県出身、信州大学医学部医学科卒業、信州大学大学院医学研究科修了、医学博士、東北大学大学院医学系研究科運動機能再建分野教授、東北大学病院運動機能再建リハビリテーション科長、東北大学未来科学技術共同研究センター音楽音響医学創製分野教授、東北大学病院音楽療法室長、東北大学大学院医学系研究科音楽音響医学分野教授等を経て令和2年4月から本学教授



沖 永 壯治教授  
担当科目・リエゾンゼミⅠ（基礎演習）、Ⅱ（専門基礎演習）、臨床医学各論Ⅰ、臨床医学各論Ⅱ、臨床医学各論Ⅲ、医療概論、衛生学

V、臨床医学各論Ⅳ、医療概論、衛生学、東京都出身、東北大学医学部医学科卒業、東北大学大学院医学研究科内科系専攻博士課程修了、博士（医学）、東北大学医学部附属病院老人科医員、米国ハーバード大学医学部専任講師、東北大学加齢医学研究所老年医学分野准教授等を経て令和2年4月から本学教授



数 脇 健司教授  
担当科目・リエゾンゼミⅠ（基礎演習）、作業療法評価学Ⅱ、老年期障害と作業療法、国際・災害リハビリテーション、介護予防と健康増進、国際作業療法

北海道出身、秋田大学医療技術短期大学部作業療法学科卒業、広島大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程前期修了、首都大学東京大学院保健科学研究科博士後期課程修了、博士（保健科学）、東京都立保健科学大学保健科学部作業療法学科助手、首都大学東京健康福祉学部作業療法学科助教、吉備国際大学保健医療福祉学部作業療法学科准教授、同教授等を経て令和2年4月から本学教授



眞 嶋 智彦准教授  
担当科目・リエゾンゼミⅠ（基礎演習）、Ⅱ（専門基礎演習）、Ⅲ（専門演習Ⅰ）、社会福祉援助技術実習指導Ⅰ、病院管理学

技術演習Ⅰ、Ⅱ、社会福祉援助技術実習指導Ⅰ、病院管理学、富山県出身、東北福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業、同大学院社会福祉学研究科修了、一般財団法人広南会広南



山 崎 敦子准教授  
担当科目・リエゾンゼミⅠ（基礎演習）、Ⅱ（福祉実践演習）、保育内容研究（言葉）、保育内容（言葉）の理論と方法、保育内容（環境）の理論と方法、保育内容総論、保育原理、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、保育内容総論、保育者論、教育実習（幼・小）の事前事後指導

大阪府出身、大阪府立大学生活科学部児童学科卒業、米国南イリノイ大学大学院教育学研究科幼児教育専攻修了、大阪市立旭東幼稚園、宮城教育大学附属幼稚園、宮城学院女子大学附属幼稚園、東北生活文化大学短期大学部生活文化学科講師、同准教授等を経て令和2年4月から本学教授



元 村 智明准教授  
担当科目・リエゾンゼミⅠ（基礎演習）、Ⅱ（専門基礎演習）、Ⅲ（専門演習Ⅰ）社会福祉原論、社会福祉史（日本）、社会福祉援助技術実習指導Ⅰ、社会福祉援助技術演習Ⅰ、Ⅱ、特講（社会福祉講座Ⅱ）

福岡県出身、東北福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業、佛教大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻修士課程修了、同博士後期課程単位取得後退学、金城大学社会福祉学部社会福祉学科助手、講師、准教授等を経て令和2年4月から本学准教授



高 橋 久子准教授  
担当科目・リエゾンゼミⅠ（基礎演習）、英語Ⅱ、Ⅲ、実用英語D

宮城県出身、宮城学院女子大学文学部芸学部英文文学科卒業、東北大学大学院国際文化研究科国際文化言語



清水 冬樹准教授  
担当科目・リエゾンゼミⅠ（基礎演習）、Ⅱ（専門基礎演習）、Ⅲ（専門演習Ⅰ）、社会福祉援助技術実習指導Ⅰ、社会福祉援助技術総論、社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ

技術実習指導Ⅰ、社会福祉援助技術総論、社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ、東洋大学社会学部社会福祉学科卒業、東洋大学大学院社会学研究科福祉社会学部専攻修士課程修了、旭川大学短期大学部幼児教育学科助教、同准教授、和洋女子大学家政学部家政福祉学科准教授を経て令和2年4月から本学准教授



佐 藤 達也准教授（任）  
担当科目・リエゾンゼミⅠ（基礎演習）、Ⅱ（専門基礎演習）、人体構造機能論、医療統計Ⅰ・Ⅱ

宮城県出身、東京工業大学生命理工学部生命理学科卒業、東北大学大学院情報科学研究科修了、東北大学大学院医学系研究科医科学専攻短縮修了、博士（医学）、米国ニューヨーク大学医学部博士研究員、スローニョク大学医学部博士研究員、千葉大学大学院医学研究科助教、東北大学大学院情報科学研究科准教授等を経て令和2年4月から本学准教授

## 学内人事

▽退職（令和元年12月31日付）

教授 大竹 榮

▽退職（令和2年2月29日付）

職員 中林 稔晴

▽退職（令和2年3月31日付）

教授 小坂 徹



准教授	同 師	講 師	助 教	職 員	教 授	准教授	助 教	助 手	職 員	総務局	総務部総務課(嘱)	入学センター入試課(嘱)
(任)	(任)	(任)	(任)	(任)	(嘱)	(嘱)	(任)	(任)	(任)			
原 秀一	荒木 俊	根岸 直樹	伊藤 恒敏	川住 隆一	河地 庸介	稲毛 義憲	亀ヶ谷忠彦	曾根 稔雅	藤田 貴昭	傍島 智子	君島 智子	浅野 勇雄
高塚 勝也	宮下 達郎	高塚 雄基	今川 ゆき	上埜 高志	井樋 慶一	市江 雅芳	沖永 壯治	籾脇 健司	眞嶋 智彦	山崎 敦子	元村 智明	高橋 久子
清水 冬樹	佐藤 達也	木内真美子	野路 慶明	相原 彩香	高木 源	八重樫愛子	梅津 雄志	池原 充洋	渋谷 千織	樋口 璃乃		

教務部教務課（嘱）	美術工芸館（嘱）	▽役職任命	副学長	総務局長	総合福祉学部学部長	社会福祉学部学部長	福祉行政学科学科長	福祉心理学科学科長	総合マネジメント学部学部長	兼産業福祉マネジメント学科学科長	情報福祉マネジメント学科学科長	教育学部学部長（兼）	教育学科学科長	教育学科学科長（初等教育専攻）	教育学科学科長（中等教育専攻）	健康科学部学部長	兼医療経営管理科学科長	保健看護学科学科長	リハビリテーション学科学科長	リハビリテーション学科学科長	通信教育部部長兼通信教育事務部長	通信教育部副部長	大学院委員長	大学院副委員長（兼）	総合福祉学研究科研究科長（兼）	教育学研究科研究科長	総合福祉学研究科社会福祉学専攻主任（通学・通信）	総合福祉学研究科福祉心理学専攻主任（兼）	教育学研究科主任
五戸 芳	林 亜衣子		寺下 明	池原 充洋	塩村 公子	阿部 一彦	阿部 裕二	渡部 純夫	岡 正彦	大内 誠	寺下 明	石原 直	熊谷 和彦	朝倉 充彦	船渡 忠男	杉山 敏子	齋木しゅう子	佐藤 善久	三浦 剛	佐藤 俊人	千葉 公慈	寺下 明	三浦 剛	岡田 清一	田中 治和	佐藤 俊人	山下祐一郎		

IRセンターセンター長	図書館館長	入学センターセンター長	法務室室長	教務部部長(兼)	教務部副部長	教務部副部長	教務部副部長	福祉実習支援室室長	福祉実習支援室室長補佐	福祉実習支援室室長補佐	石黒 亨	石附 敬	阿部 一彦	佐藤 泰伸	寺下 明	石原 直	菅原 敏彦	和田 明人	大西 孝志	渡部 純夫	佐藤伊知子	障がい学生支援室室長(兼)	大西 孝志	梶原 洋	金 政信
-------------	-------	-------------	-------	----------	--------	--------	--------	-----------	-------------	-------------	------	------	-------	-------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	---------------	-------	------	------

キャリアセンター副センター長	大内 真弓	工藤 健一	佐藤 英仁	野呂 拓生	高橋加寿子	ケネス	生田目学文	清水 由賀	庭野 道夫	都築 光一	星山 幸男	渡部 純夫	船渡 忠男	船渡 忠男	千葉 公慈	庭野 道夫	千葉 公慈	寺下 明	梶原 洋	芹沢 恵子	長谷川 潔	鈴木 正志	菅野 政喜	長谷川 潔
----------------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------

## 「令和元年度学位記・卒業証書授与式」 学科別に挙行、1,609人が巣立ち

2020年3月19日、「令和元年度学位記・卒業証書授与式」が執り行われました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、国見キャンパス、仙台駅東口キャンパスで学科ごとに会場を分けて行われました。

学位記は大学院の修了生が博士課程3人、修士課程が通学制7人、通信制13人。卒業証書は社会福祉学科379人、福祉行政学科106人、福祉心理学143人、社会教育学科1人、産業福祉マネジメント学科104人、情報福祉マネジメント学科88人、教育学科初等教育専攻228人、同中等教育専攻44人、保健看護学科82人、リハビリテーション学科作業療法専攻39人、同理学療法専攻53人、医療経営管理学科77人、通信教育部242人で、全体では1,609人が対象になりました。

卒業生のみならず、マスク着用が奨励された学科ごとの授与式では、各会場で千葉公慈学長の録画映像による式辞のあと、代表が学位記・卒業証書を受け取り、学科長、学科教員が祝辞を述べました。令和2年度学位記・卒業証書授与式は、卒業生のみ

参加で3月18、19日の2日間、午前・午後の2部制とし学部ごとに挙行される予定（1月15日現在）です。



笑顔で記念撮影をする卒業生たち

## 令和2年度入学式は中止 3年度は学部ごとを予定

4月3日、2020年度の新入生が入学しました。大学院は通学制の総合福祉学研究科博士、修士課程、教育学研究科、通信制の修士課程合わせ40人。総合福祉学部は編入生を含め、社会福祉、福祉行政、福祉心理学で653人、総合マネジメント学部は産業福祉マネジメント学科と情報福祉マネジメント学科の216人、教育学部教育学科は272人、健康科学部は保健看護学科、リハビリテーション学科、医療経営管理学科合わせて

258人で、合計1,439人が新たな仲間入りをしました。

当初はこの日に入学式の式典を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止。各教室ごとに換気を十分に行いながら千葉学長からのメッセージが動画で流され、貸与パソコンなどが渡されました。

令和3年度入学式は、4月5、6日、卒業証書授与式同様に学部ごとに行われる予定（1月15日現在）です。

## 曹洞宗務庁から 見舞金1,000万

曹洞宗の宗門立大学である東北福祉大学を運営する学校法人梅檀学園は6月17日、曹洞宗務庁から新型コロナウイルス対応として、見舞金1、



鬼生田宗務総長から目録を贈呈された高橋理事長（中央）と千葉学長（左）

000万円を拝受しました。

曹洞宗務庁では、感染症拡大による影響でアルバイト等の収入源が断たれ、多くの学生が経済的に困窮を余儀なくされていることに鑑み、学生の経済的支援に使用していただきたいとして、本学園に見舞金を交付していただきました。なお、本学と同じく宗門立大学の駒澤大学（東京都）、愛知学院大学（愛知県）を運営する両学校法人にも同様に見舞金を送られました。

## 両祖忌法要を オンライン公開

仏教専修科では2020年9月17日、両祖忌法要を本学園見キャンパス法堂で営みました。両祖忌は、永平寺を開いた道元禅師と、総持寺を開いた瑩山禅師を偲ぶ法要です。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、例年5月にリエゾンゼミ内で1年生の参列のもと営んできた降誕会法要が中止となったため、両祖忌のオンデマンド化を計画。広報課の協力のもと、大学ホームページ上で全学生、教職員に限定して視聴できるよう公開しました。行動指針も緩和された10月7日の達磨忌、12月3日の成道会にはオンライン配信はしませんでした。十分な換気と感染症対策を施し営みました。



## 宮城県白石市と締結 地域共生社会の実現に向けた包括連携協定

2020年10月16日、本学は宮城県白石市と「地域共生社会の実現に向けた包括連携協定」を締結しました。白石市役所内の防災センターで行われた協定締結式には、本学から千葉公慈学長、寺下明副学長、池原充洋総務局長、総合マネジメント学部・岡正彦学部長、産業福祉マネジメント学科・森明人准教授、白石市からは山田裕一市長、菊地正昭副市長らが出席しました。

協定は相互のパートナーシップのもと、人材、知識、情報などの資源を有効活用し、地域共生社会の実現に資することが目的。連携事項として①地域共生社会の実現に必要な事業②人材育成③その他それぞれが必要と認めること、が協定書に示されました。

地域共生社会とは、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」などの関係を超えて、地域住民らが「我が事」として参画し世代や分野がつながりながら、地域をともに創っていく社会のことです。

山田市長は「東北福祉大学の知見や豊富な経験、ノウハウを地域福祉計画に取り入れ、住民目線の福祉など地域共生社会を実現していきたい」と今後

協定書を手にする千葉学長（右）と山田市長



の取り組みに期待。千葉学長は「ポストコロナでは、地域社会の存在がより一層注目される。白石市と宮城発の地域共生モデルを創造し、提起していきたい」と抱負を述べました。

協定締結を受け、本学では地域福祉計画への貢献のほか、産業福祉マネジメント学科を中心とした、まちづくり活動への学生の参画など白石市をフィールドとした教育・研究活動の実践にも取り組んでいく方向です。

## 学生が地域活性化アイデア 仙台駅東まちづくり協議会

本学が参画する「仙台駅東まちづくり協議会」の都市創造部会が2020年11月13日、仙台市宮城野区のイベントホール松栄で開催され、エリア内の立地企業や地域住民ら約40名が参加しました。本学からは産業福祉マネジメント学科の岡正彦教授と野呂拓生准教授のゼミ生17名が参加し、仙台駅東エリア活性化へのアイデアを提案しました。

協議会は仙台駅東口地域の資源を最大限に活用し、総合的な活性化を担うエリアマネジメント組織として2019年8月に設立。活動の一環として、岡教授のゼミ生によるプロジェクトチームが結成。これまで仙台駅東口エリア情報サイト「ONE」の運営や、インスタグラムによる情報発信を開始しています。

今回は、学生たちが実際に歩き回り感じたことから、榴岡公園の活用方法、新たな交通機関の考案、今後の情報発信の方針などが発表されました。参加者からは「SDGs（持続可能な開発目標）を考慮した提案もあり、とても参考になった。学生目線を取り込みながら、より良いまちづくりをしていき

たい」と感想が語られました。

## 高大連携事業7校 コロナ禍でも進行

2020年度の高大連携事業は、新たに宮城学院、古川学園高を加え、7つの高校で行いました。年間で4学科による15講座を行う宮城学院とは5月14日、保健看護学科によるオンライン講座からスタート。コロナ禍のため、すべての回でオンライン講座となりました。

また、古川学園高で今年から開設した創志コースと産業福祉マネジメント学科との連携事業は、8月27日の工藤健一准教授による講座を皮切りに実施。その他の高校とも各学科の尽力のもと、模擬授業を行いました。来年度以降も感染症対策として、オンライン併用での事業推進が考えられています。



9月10日、多賀城高災害科学科での模擬講義の様子

## Team Bousaisi 角田さんが 国土強靱化担当相らと座談会

防災活動に取り組む若者との意見交換を目的とした「世界津波の日」座談会が「世界津波の日」の11月5日に合わせ通信社の企画で行われ、Team Bousaisi 副代表の角田かりんさん（福行3年）が参加しました。「世界津波の日」は日本が提唱し、2015年に国連で制定。世界的に津波への対策、意識向上をめざしています。角田さんは自身の防災活動や災害ボランティアの経験を元に、小此木八郎・国土強靱化担当相らと意見を交わしました。



小此木大臣（左から4人目）と参加者。左端が角田さん。

蒙など様々な防災活動を行っています。東京都内の座談会を終えた角田さん

は「他の参加者と話して刺激をもらった。これからも東日本大震災の被災地で、学生だからこそできる活動を続けていきたい」と意気込みました。座談会の内容は共同通信社運営サイトOVO（オーヴォ <https://ovo.kyodo.co.jp/pr/2020110501>）で閲覧いただけます。



対談に臨んだ角田さん

## 学生開発「KIKATTO」 消防庁長官賞を受賞

仙台市消防局と情報福祉マネジメント学科の学生チームが2019年度に開発した「KIKATTO」が2020年6月、消防庁が主催する予防業務優良

事例表彰において特に優れた団体に贈られる「消防庁長官賞」を受賞しました。

予防業務優良事例表彰とは、全国から寄せられた予防業務の取組の中で他団体の模範となる優れたものを消防庁長官が表彰し、広く全国に紹介することにより、予防行政の意義や重要性を広く周知し、各消防本部の業務改善に資することを目的に行われています。

第4回目を迎えた今回の表彰では、45団体の応募の中から、消防庁長官賞として仙台市消防局を含む4団体、優秀賞として14団体が選ばれました。

「KIKATTO」について選考委員からは、「大学と連携して使いやすい無料の点検アプリを開発したことは、過去に事例がなく評価できる。今後、通信機器の性能が向上し、またアプリに慣れた世代が報告書の提出に関わることから展開が期待できる」とのコメントをいただきました。

## 宮城県警から初の個人表彰 サイバー防犯ボランティア

情報福祉マネジメント学科学生、同学科教員のゼミ生ら59人が委嘱されている「サイバー防犯ボランティア」の感謝状贈呈式が2020年12月18日、仙台市青葉区の宮城県警察本部で行われ、パトロール強化期間に顕著な活動

を行った本学と、3人の学生に感謝状が贈られました。

サイバー防犯ボランティアは、インターネット上に氾濫する違法・有害情報を発見し警察に通報する活動を行い、今年度は7月1日から9月30日までの3カ月間が強化期間とされ、SNSに起因する児童被害防止対策と特殊詐欺対策に重点が置かれました。



感謝状を手にする左から大内誠教授、阿部さん、野崎さん、佐々木さん

できなかったので、自宅でできるボランティア活動として取り組めた」と充実した表情で語りました。

感謝状は、この期間の取り組みに特に貢献した団体と個人に贈られるもので、59人が参加した本学が団体表彰、阿部尚実さん、野崎舜さん（ともに情報福3年）と佐々木瞳さん（産福3年）の3人が個人表彰を受けました。個人表彰は、本学がこの活動に参加してから3年目で初めてのこと。50件を超える通報を行ったという野崎さんは「コロナの影響で他のボランティア活動ができなかつたので、自宅でできるボランティア活動として取り組めた」と充実した表情で語りました。



## 保育士・幼稚園課程秋元さんら 全国学生の保育者就活を支援

保育士・幼稚園課程の学生たちが2020年度、オンラインで全国の学生の保育者就活を支援する取り組みを展開しました。実行委員として運営の中核を担ったのは、同課程の秋元円さん(教育4年)ら「ミシユラン・プロジェクト」のメンバーたち。「ミシユラン・プロジェクト」は、これまでも保育・幼児教育の現場を訪れて保育の質を評価したり、保育・幼児教育分野の専門家をめざす学生に向けて独自の就活ガイドラインを提示したり、専門家を交えた学内外のセミナー等でも発題役を担ったりするなど、多種のアクティブな活動を実践しています。

この取り組みはZoomを利用し



「対話型オンライン保育合同説明会」を動画で告知する学生たち

ての保育者就職の合同説明会から開始。当初は専門の人材紹介会社の運営支援を受けましたが、第10回から完全に学生主体で企画・運営を行うようになりました。5月30日を皮切りに全16回開催し、初回から100人を超えるなど、学内外から延べ1,000人以上の参加者を数えました。

指導を行った和田明人教授は「コロナ禍でのピンチをいかにチャンスに変えられるか。全国の大学・保育者養成関係者から注目を浴びている本学の『ミシユラン・プロジェクト』は今年も見事に結果を出しましたが、これからはさらに全国に向けて、学びの成果を発信し続けていくことになりそうです」と学生たちを評価しました。

実行委員の学生たちは、1月30日に集大成として「対話型オンライン保育合同研究会」を主催。こちらも盛況のうちに会を終えました。

### 河村ゼミ生が企画・開催 5大学オンラインイベント

医療経営管理学科・河村孝幸ゼミは2020年11月29日、関東や関西の大学と合同で、オンラインイベント

「Beyond〜ニューノーマル時代のWell-beingを創造する〜」を開催しました。

8月末から5つの大学(関西学院大学、城西大学、東京医療保健大学、目白大学、東北福祉大学)の教員と学生が参加して実行委員会を立ち上げ、その後は各大学の学生実行委員が中心となって打ち合わせを重ねてきました。オンラインで自らの企画を発信することや、他大学の同学年の学生たちのゼミ活動を知る機会は、このコロナ禍でなければ経験しなかったこと。当日はYouTubeのライブ配信を活用し、河村ゼミでは、3年生による「オンラインクイズバトル」、4年生による「運動と健康に関するミニレクチャー」を配信。クイズバトルでは、仙台に関する問題、大学の特長や「禅のこころ」に関する問題、大学の学問に関する問題、学科の学びに関する問題などをクイズ形式で紹介しました。



オンラインイベントを実行した河村ゼミ生たち

### せんだんホスピタル 不登校対応入院開始

大学附属病院のせんだんホスピタルでは2020年度、中学生から高校

生を対象とした不登校対応入院「キャンプせんだん」を開始しました。

例年は年度の前半、特に6月から7月、9月に不登校を主な症状の1つにした受診が増える傾向がありますが、今年度は新型コロナウイルスによる休校が長期化したことの影響もみられました。せんだんホスピタルは、宮城県唯一の中学校院内学級を擁する児童精神科として08年の開院以来、精神的不調が生じた子どもたちを10年以上にわたって診療。これまでも児童思春期病棟への入院を通しての援助を行ってきましたが、より地域で活用されるためにこの対応を始めました。

「キャンプせんだん」の開始に際し、児童思春期病棟への入院生活を紹介するため、マンガ『キャンプせんだんとぼくのあした』を作成。マンガは無料での配布と、せんだんホスピタルホームページから閲覧が可能です。



マンガ「キャンプせんだんとぼくのあした」

## 郷古さん B 部門最優秀賞 第19回学内懸賞論文



令和元年度第19回学内懸賞論文の最優秀賞、優秀賞ほかの受賞

者が発表され、2020年2月17日、学内レストラン「風土」で表彰式が行われました。テーマはA部門が「日本の良き伝統を考える」、B部門が「私の関心とSDGs」の2種類で、A部門に29編、B部門に16編の作品が寄せられました。

審査の結果、B部門から最優秀賞（奨学金10万円）と優秀賞（同5万円）が各1編ずつ、A部門からは優秀賞が1編、佳作はA部門で1編、B部門で2編が選ばれました。表彰式後、寺下明副学長は「受賞おめでとう。書くことが大事で、（応募を）友人にも声をかけてほしい」と述べました。審査委員長の斉藤仙邦教授は「形式は以前よりも整ってきている。ただし、学術的な書物や論文をより参照するように」と要望しました。受賞者は以下の通り（学年は当時）。

〈最優秀賞〉 B 部門 郷古大雅（社福3年、写真）

〈優秀賞〉 A 部門 渡邊琴美（福行2年）、B 部門 大竹珠生（福行2年）

〈佳作〉 A 部門 奥州敬祐（福行2年）、B 部門 田中勝義（福行4年）、佐々木暲（産福2年）

## ベストティーチャーに 教育・青木一則准教授



学内表彰の「2019年度ベストティーチャー」に教育学科の青木一則准教授（写真中央）が選出され、

2020年12月16日、学長室で千葉公慈学長から表彰状が贈られました。

表彰は、授業評価アンケートに基づき2015年度から行われ、19年度は青木准教授が担当する専門教育科目「保育内容研究（表現・美術）」が、教育の質にかかわる項目で高い評価を得ました。青木准教授は「（受賞は）うれしい。対面で評価された形だが、コロナの状況下にあつて、授業については考えさせられる。オンラインでもさらに精進したい」と話しました。その他の表彰は以下の通り。

名 【グッドティーチャー】（ ）内は科目名

〈総合基礎教育〉平泉拓助教（心理学

の基礎）

〈外国語〉シュミット・ケネス（英語Ⅲ）

〈スポーツ〉鈴木玲子特任教授（スポーツⅠ）

〈専門教育〉鎌田克信講師（体育科の指導法）、竹森その子非常勤講師（英語Ⅰ・コミュニケーションを含む）、

菅原弘一非常勤講師（社会科の指導法）〈大学院〉大西孝志教授（聴覚障害者教育特論）

## 「野々島プロジェクト」 塩竈市教委から感謝状



宮城県塩竈市の野々島で子どもたちに自然体験学習を提供する、本学の「野々島プロジェクト」に2020年11月5日、塩竈市内で行われた教育功績者表彰式（写真）で塩竈市教育委員会から感謝状が贈呈されました。式には「野々島プロジェクト」代表の金政

信教授と山口政人准教授が参加し、吉木修教育長から金教授に感謝状が手渡されました。贈呈理由は「地域

交流・被災地復興及び子どもたちの社会をたくましく生き抜く力」の育成に貢献した」こと。金教授は「今後も子どもたちの自然体験学習の機会の提供や地域共創の発展に努めていきたい」と感無量の面持ちで話しました。

## 船渡教授に任命 日本防災機構理事



東北福祉大学防災士協議会の会長を務める健康科学部学部長・船渡忠男教授が、2020年度より特定非営利活動法人・日本防災

士機構の理事に任命されました。日本防災士機構は、減災と防災力向上のための知識・技能を習得し活動する「防災士」の資格認証団体。11月に団体の表敬訪問を受けた船渡教授（写真左から3人目）は「新型コロナウイルスの影響で活動が制限されているが、地道に研修講座を開講していきたい。地域の防災リーダーとして意識を持って活動できる人材育成に取り組んでいく」と意気込みを語りました。



# EVENTS NEWS

## 「島秀雄記念優秀著作賞」を受賞

### 鉄道交流ステーション



当館発行のブックレット等が2021年1月、鉄道友の会「島秀雄記念優秀著作賞」の2020年の特別部門受賞作として選出されました。この賞は毎年1回、鉄道分野に関する優れた著作物または著作物に関する功績を選定し、鉄道および鉄道文化の発展に寄与することを目的に制定されています。受賞は「『むかし、秋保まで鉄道が走った。』ほか一連の企画に対して」で、選定理由は「地元の利を生かした記念な資料収集に加え、関係者へのインタビューも交え、完成度の高い内容で既刊の鉄道交流ステーションブックレットや企画展と合わせてその企画を高く評価して」とされました。

当館は、新型コロナウイルス拡大により2020年度末まで休館となり、4月から予定した企画展「大回りで行くやさしい鉄道探検隊」が無期限延期。代替措置として、その予告編のYouTube動画を公開しました。

## MUJI BOOKS「芹沢銈介」刊行

### 芹沢銈介美術工芸館



無印良品が手掛ける MUJI BOOKS「人と物」シリーズの第14弾として2020年9月、「芹沢銈介」の文庫本が刊行されました。芹沢の仕事に対する真摯な言葉とともに

に代表作品や収集したコレクションが紹介されています。このシリーズでは、今回はじめて特装版が製作され、「小泉八雲」「芹沢銈介」「星野道夫」の3冊セットも刊行。特装版はオールカラーで、スリーブ2種には芹沢模様が採用されました。本編では本学美術工芸館の所蔵品より「いろは文着物」「型染うちわ絵」、マッチラベルなど11点が紹介されています。

また、コロナ禍で予定の展示が中止となる中、「Web展示室」を6月25日から、「おうちワークショップ」を9月2日から工芸館ホームページ内で公開を開始しました。

## 感染対策し「ハイキュー!!展」3万3千人

### TFUギャラリーMini Mori

2020年9月19日から10月25日にかけて、「連載完結記念 ハイキュー!!展」を開催、約3万3千人が来場しました。同作は週刊少年ジャンプで約8年連載。直筆原稿や新たに描きおろされたカラーイラスト、躍動感あふれるパネル等が展示され、熱狂的なファンをうならせていました。

開催にあたり完全日時指定の入場券の販売、来場者の個人情報登録や検温の実施など、厳格な感染対策を行いました。

また、11月には「第1回杜のみやこ工芸展」、「第67回河北書道展」を開催。書道展には、池田満寿夫の「般若心経写経」軸も展示され、反響を呼びました。



## 硬式野球部・山野、元山選手ヤクルト入り

2020年10月26日に東京都内で行われたプロ野球(NPB)ドラフト会議で、硬式野球部の山野太一投手(医療経営4年)が東京ヤクルトスワローズから2位指名、元山飛優内野手(同4年)が同じくヤクルトから4位指名されました。

山野投手は山口・高川学園高出身の左腕。リーグ戦通算22勝0敗、2年秋から3年秋にかけては公式戦70回連続無失点を記録しました。長野・佐久長



11月24日、仮契約を終えた元山選手(左)と山野投手は背番号入りグッズを手に笑顔

聖高出身の元山内野手は、アマチュアトップクラスの守備力が持ち味。2018年の全日本大学野球選手権では正遊撃手として、本学の3度目の日本一に貢献しました。

感染症対策のため、国見ヶ丘第1キャンパスのトレーニングセンターで指名後に会見を行った山野投手は「プロで1年でも長くやれるように」、元山内野手は「世界一のショートストッパをめざす」と意気込みました。

2人は11月30日に本契約を結び、背番号は山野投手が21、元山内野手が6に決定。また、卒業生の中野拓夢内野手(2018年度卒、三菱自動車岡崎)が阪神タイガースに6位で入団、本学からのNPB選手は計51名となりました。

### 5季連続73度目 V 仙台六大学野球

10月18日まで行われた仙台六大学野球秋季リーグ戦で、硬式野球部が5季連続73度目のリーグ優勝を果たしました。

今年は新型コロナウイルスの影響で、春季リーグ戦が1970年のリーグ発足以来初の中止。6月の全日本大

学野球選手権も中止となり、秋の開催も危ぶまれましたが、2戦総当たり勝率制で10戦全勝優勝を遂げました。また明治神宮大会も中止となったため、代表決定戦の代替大会となった10月31日、11月1日の東北地区大学野球王座決定戦では、八戸学院大学を延長10回4-2、富士大学を延長11回3-2とともにタイブレークの激闘を制し、東北王座に輝きました。



リーグ戦を制し、歓喜する元山主将(中央)ら選手たち

### 椋木、三浦投手が 侍J大学代表候補

硬式野球部・椋木蓮、三浦瑞樹投手(ともに情福3年)が11月16日、全日本大学野球連盟から発表された侍ジャ



椋木投手(左)と三浦投手

パン大学代表候補43人に名を連ねました。

左腕の三浦投手は盛岡大附高(岩手)時代から甲子園で実績を残し、本学入学後も1年春から活躍。2018年以来2度目の代表候補入りとなりました。高川学園高(山口)出身の右腕、椋木投手も1年春から公式戦を経験。今秋の仙台六大学野球リーグ戦では、抑えとして最速153キロをマークし73度目の優勝に貢献、最高殊勲選手賞を受賞しました。代表候補入りは初めてとなります。



## 2016年以来4年ぶり8強入り！ 全日本バレーボール大学女子選手権

11月30日から行われた第67回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会に女子バレーボール部が出場、2016年以来4年ぶりの8強入りを果たしました。

初戦となった2回戦の広島大学戦は、2セットにわたり失点を1けたに抑える完勝。3回戦では関東の強豪校である青山学院大学にもストレート勝ちを収めました。2002年以来となる4強入りをかけ迎えた準々決勝の相



青山学院大学戦でスパイクを打ちにいく高石主将(1)

手は、3連覇を狙う強豪筑波大学。前

戦で負傷したりベロ佐々木遥香選手(社福4年)を欠くなか、チームがひとつ

となって挑んだものの、0-3で敗れました。松田健太郎監督は「下馬評をひっくり返したかったが残念。強豪と同じことをやっても勝てないので見直していく」と来年度を見据えました。

### ▽2回戦

東北福祉大学	3	25	25	25
		12	8	9
0	広島大学			

### ▽3回戦

東北福祉大学	3	25	25	25
		22	21	22
0	青山学院大学			

### ▽準々決勝

東北福祉大学	0	22	21	19
		25	25	25
3	筑波大学			

## 過去最高ならず17位 杜の都駅伝

第38回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(通称・杜の都駅伝、6区間38・1km)が10月25日、仙台市内で行われ、14年連続18度目出場の本学陸上競

技部女子駅伝チームは2時間12分57秒で17位となりました。

新型コロナウイルスの影響により、

思うような練習ができず迎えた全国の舞台は、1区で16位スタートもその後19位に。それでも4区須藤ひかる選手(看護4年)と6区小高夏綺選手(同3年)が1つずつ順位を上げ17位でフィニッシュしました。過去最高の14位には届きませんでした。来年の東北地区出場校の2枠を守りました。3区を走った主将の五十嵐徳子選手(産福4年)は「かみ合わず、個人の力を発揮できなかった。今回の結果を冷静に受け止め、次にかしめてほしい」と後輩にあとを託しました。

また、12月30日に行われた富士山女子駅伝(7区間43・4km)では、けが人を抱えながらも2時間33分04秒の16位と健闘しました。



6区10位と好走しゴールする小高選手

## 短剣道同好会 全日本2連覇



第39回全日本学生銃剣道選手権大会短剣道の部が10月31日、福島県二本松市の城山第二体育館で行われ、短剣道同好会が出場した本学は団体戦2連覇、個人戦でも工藤勇人選手(産福2年、写真右)が2年連続の優勝を果たしました。また、中川誉久選手(社福3年、同左)も3位に入りました。

## UNIVAS CUP 東北地区で1位

2019年に設立された大学スポーツ協会(UNIVAS)による競技横断型大学対抗戦「UNIVAS CUP2019-20」において2020年3月、本学は東北地区1位となり地区部門賞を受賞しました。UNIVAS会員の32競技団体が開催する大会のうち、大学日本一を決める大会を「UNIVAS CUP」が指定する大会と設定、順位に応じてポイントを獲得していくもので、本学は2、180ポイントを獲得。栄えある第1回目での表彰となりました。



「ダンロップ・フェニックス」で優勝した金谷選手（中央）。左は杉原選手、右は米澤選手

## 金谷選手「マコーマックメダル」日本人初受賞 & プロ転向3戦目でツアー優勝の快挙

ゴルフ部主将の金谷拓実選手（社福4年）が2020年9月10日、世界一のアマチュア選手に与えられる「マーク・マコーマックメダル」を受賞しました。

同賞は、07年にゴルフの総本山といわれる英国のR&A（ロイヤル・アンド・エンシェント・ゴルフクラブ・オブ・セントアンドリュース）が制定、毎年「全米アマ」もしくは「欧州アマ」終了後のランキング1位選手に授与されるもの。金谷選手は19年8月に世界アマチュアランキング1位となり、20年9月9日付までトップを維持、日本人初めての受賞が確定しました。

全米オープン出場後の10月2日には、プロゴルフツアー転向を表明。11月22日に最終日を迎えた男子ゴルフツアー「ダンロップ・フェニックス」では4ホールに及ぶプレーオフを制し、3戦目にしてプロ初優勝（アマ時代含めツアー2勝目）を飾りました。3戦目での優勝は、本学OBの松山英樹選手（13年度卒）が13年に記録した2戦目に次ぐ速さ。

また、同ツアーでは1学年後輩の米澤選手が8位タイ、杉原大河選手（ともに社福3年）は27位タイに入るなど、本学ゴルフ部の底力を見せてくれました。